

① 道徳部会「仮説Ⅰについて」

～目指す授業と具体的方策～

児童の思いや問いを生かしたり、教材の特質を生かした指導や児童の実態に沿って指導を工夫したりすることで、児童は教材と自我関与を図りながら自他との対話を行い、道徳的な問題を自分事として捉えることにより、自己の生き方について考え、自分の道を自ら切り拓こうとする子どもが育つであろう。

① 導入の工夫

導入では道徳的価値に関わる子どもの「？」を大切に課題を設定する

直接問われるとプラス面の回答

思考のずれ

アンケートはマイナス面の回答

このずれを使い、問題を焦点化して問題意識をもたせることが大切



② 学習過程の工夫（道徳授業の基本的な流れ）

導入

子どもの現状認識を明らかにする＝問題意識をもつ

〇〇について考えよう
本当の△△とは？

課題の設定

展開

教材

児童の問い

考える・議論する

補助発問・問い返し・中心発問

共通解・・・課題に対して、皆で見つ

けた一定の望ましさ

課題についてみんなで考えたことを導き出すことができた価値に対する認識やこれまでの考え方を再構築したもの

例)男女の協力には、お互いが信頼し合うことが大切

終末

共通解

納得解・・・課題に対して、個々の

児童がたどりついた答えを自分の言葉で書く。「今日の授業で学んだことや考えを深めたこと」「これからの生活に広げたいこと」
学んだことを現実の世界に返してあげる。(自己内対話からの一般化)

納得解

振り返り・学習感想など

自分の生き方への理解を深める

- ・読みの視点を明確に(感想をもとう・問題点は？など)
- ・時間配分に注意する
- ・納得解の交流の時間を確保する



何について考えさせるか＝課題
何について気付かせるか＝共通解

③ 発問の工夫(今年の重点)

子どもが自走するための発問＝子どもが自分を通して語れる発問



あらすじを押さえなくても、子どもたちが自分から登場人物たちの関係性や気持ちを汲み取り、それどころか書いていない人物の背景やこれからのことまで考え始めるような発問。



場面発問

資料中のある場面に即して、そこでの登場人物の心情や判断、行為の理由などを問うたり、気づきを明らかにしたりする発問
～の時、主人公はどんな気持ちだろう
～する時の心の中はどんなか

登場人物について考えはするが、限定的な問いのため、本質に迫りきれないことがある。

今年度意識するのは

テーマ発問

資料の主題やテーマそのものに関わって、それを掘り下げたり、追求したりする発問
[発問例]
〇〇をこんなにも変えたものは何だろう
この友達関係についてどう思うか

テーマ発問の例（橋の上のおおかみ）

- ・おおかみはうさぎに親切にすべきか、すべきではないか
- ・相手を抱きかかえて渡すことはできるか
- ・くまに出会わなければおおかみはどうなっていたか
- ・この後、おおかみは誰にどんな親切をするだろうか
- ・おおかみには何が足りないか

④ 中心発問について

本時の課題に照らして、子供たちが「なぜ、〇〇なのだろう？」と疑問に思うところ
です。そして、様々な視点から子供たちが考えられる発問を作ります。

昨年の中心発問

- ・こぐまくんはどんなことを思いながら練習を続けたのでしょうか？(希望と勇気、努力と強い意志)
- ・「お誕生日おめでとう」と言ったお母さんは、夏子がどんな子でいるとうれしいかな？(生命の尊さ)
- ・あなたが正二なら、この後、どうしますか？(善悪の判断)
- ・本当の友達ってどんな友達？(友情・信頼)
- ・みんなが気持ち良く過ごせる教室ってどんな教室？どんなことが必要？(節度・節制)
- ・提案に反対した人が考えを変えたのはどうしてでしょうか？(規則の尊重)
- ・頼られる人になるために大切なことは？(節度・節制)
- ・ミリエル司教から学ぶことは何ですか？(相互理解・寛容)

⑤ 計画的な問い返し

発問と連動させながら問い返しをすることで、児童の思考を深めていきます。

1,子どもの発言をそのまま繰り返し,それを他の子どもたちに吟味させる
〇〇さんと同じ考えの人?自分の言葉で言ってみてください

2,教師なりの受け止め方をして,子どもの発言を本人や他の子どもに返す
今,〇〇さんが言ったことはこういうことでのいいのかな?もっと詳しく誰か説明できる?
(意図的に極端に,的外れなことを言うのも一つの方法)

3,子どもの発言を違った角度から投げ返し,再度発言を求める(価値の本質的な理解に向かう道筋の修正や,分かったつもりを崩し新たな気づきを促したりする)

- ・ミリエル司教は上から目線でジャンを助けたの?
- ・友達ができるのを待つのは大事と言うけど,辛そうにしている友達に手を貸すのが本当の思いやりではないの?
- ・みなさんは声をかけたこの人を親切と言ったけど,では声をかけてあげたくても,できなかつたら親切ではないということ?

→前提や結末をひっくり返し,多面的多角的に考えさせる

⑥ 掲示物「かがやき」「道徳ポスター」

「かがやき」

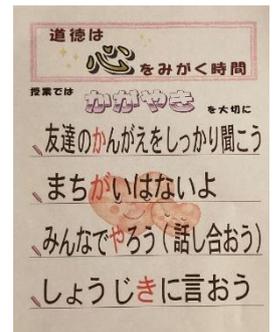
道徳の授業で大切にしてほしいことを授業者と児童が共有するためのツールです。オリエンテーションで説明をお願いします。教師が自身の授業を振り返るのにも役立つかと思います。学期始めや終わりなど,節目節目の振り返りの際にも活用してほしいと思います。

「道徳ポスター」

子どもたちの「学びの足跡を残す」「学校教育と道徳教育をつなげる」「自分の心の成長に気付く」というねらいのもと、毎時間、道徳の授業を振り返った掲示物を作成しています。全校で統一して、作成することでどの学級になっても、どの担任の先生になっても、同じツールで振り返ることができます。

また、内容を4つの視点に沿って色も分けて作成することとしています。

- A 主として自分自身のこと・・・ピンク
- B 主として人との関わりに関すること・・・橙
- C 主として集団や社会との関わりに関すること・・・青
- D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること・・・緑



これらを通して,児童一人一人が自分の納得解を見つける時間を目指していく。また,ある児童が納得解を見つけたとき,教師や周囲の人がその納得解をその児童が考え抜いた価値ある結論なのだを受け止め,共感できることが大切